

実践記録

104

シリーズ

第57回新潟県公民館大会
事例報告3から



新潟市東地区公民館 運営審議会委員 松原 明子

『過去・今・未来』沼垂もんの冬まつり

1 はじめに (省略)

2 公民館活動から

公民館を利用しておりますと、いろいろと地域のことを含め、様々な情報が目に耳に入ります。

そんな中で、平成15年に公民館で「地域の歴史を考える」として、ぬったり地域楽が開催されるとのこと、私にとって、ようやく沼垂を様々な学ぶ機会に恵まれ参加しました。

ぬったり地域楽で学びたいこと、調べたいこと、したいこと、他ネットワーク作り、学校と地域、建物と景観を残す…等のテーマのもと、まず今の沼垂を知るため、最初は、まち歩きを行いました。

沼垂は、川欠けによる度重なる町の移転、300年の歴史のある町、現在の道路がほとんど川か堀であること、生活すべてが水路で往来していたこと、舟運のおかげで昔の沼垂の町が栄えていたことなど、初めて知ることばかりでした。その上に沼垂の町、堀、小路、橋、沼垂出身の「小唄勝太郎」の話と沼垂の歴史について様々な学ぶことができました。

また、沼垂ゆかりの画人達では、「長井雲坪」、「金子孝信」、「須田霞亭」の生涯と作品についての講座や、新潟と沼垂のかかわりの「よもやま話」等々学んできました。歴史だけではなく、今の沼垂のかかわりは、ということが話し合われ、平成17年度はぬったり地域楽をもう一度考えてみようということになり、ワークショップ方式で基本理念を設定し、その現状は次のとおりでした。

①楽しいまちを作ろう！「街、店、人」

街がさびしい。お店の活気がない。買いたい物の店がない。

沼垂もんの欠点あり

②居場所づくりと人材育成、人こそ宝物！

各年代の居場所の不足。居場所が周知されていない。必要な人材が見つけられない。

③住みやすい環境を作ろう！

港が活用されていない。公園・水辺が少ない。道路の活用ができていない。古い町が欠点。

④温故知新の沼垂作り～古い物は懐かしい物！

沼垂の宝物を保存し記録する。

そして、この4点の基本理念に基づき、方針と方策についてワークショップを行いました。

①楽しいまちを作ろう！「街、店、人」

○繁盛店を創造する

- ・発酵食品のコンテストを開く
- ・沼垂名物を創り出す
- ・店の手伝いしてくれる人を募集する
- ・沼垂のカレンダーを作る

○自分のまちに関心を持ってもらう

- ・昔の話を聞く
- ・沼垂のまちめぐりをする
- ・関心事を調査する
- ・まちの楽しみを洗い出す

②居場所づくりと人材育成「人こそ宝物！」

地域の人と人との交流を図る

- ・既設の公民館の「青少年の居場所」を発展させる。大人にも開放・参加する。
- ・大人も子どもも集まりやすく、興味ある事業を開催
- ・公民館のサークルの協力を得ながら子どもと一緒に作業する。

③住みやすい環境を作ろう！

港と道路の活用

- ・栗の木バイパスの都市計画の確認
- ・港に関する意識調査 (アンケート)
- ・港と道路の活用サポーターづくり

④温故知新の沼垂づくり～古い物は懐かしい物！

写真による沼垂の再発見

- ・昭和30年代以前の写真の発掘 (個人、企業、新聞記事他)
- ・発掘した写真の整理 (年代順、地区別、人物別)
- ・写真のデータベース化 (発表、保存)
- ・写真展の開催
- ・古い写真から新しいまちの発見

以上4つの課題について話し合い、少しずつ具体的なものになっている、次に進むことになりました。そして、住民が何を望んでいるのか？いろいろな活動をどうリンクしていくのか？等の2点をポイントに考えあわせ、イベントを開催することになりました。

3 沼垂もんの冬まつり

○開催に当たって

ぬったり地域楽での学びのプロセスからできたひとつの疑問が、「沼垂の人たちが何を考え、自分たちのまちをどうしたいのか」という基本的命題でした。

そのため、沼垂地域全体を巻き込んだイベントという手段を用い、最終的には、「沼垂の未来づくり」に向かつて①沼垂の人が沼垂を知り、②沼垂の人が沼垂を愛し、③沼垂の人が沼垂を誇りに思うを、基盤づくりのファーストステップとして位置づけ、沼垂内部に働きかけることを中心に考え、既存の活動団体や自治会等あらゆる組織を巻き込んで行うこととしました。

沼垂の人たちは、祭りが大好きで、これまで以上の人が集まり何回にもわたり話し合われ、試行錯誤を繰り返しました。

徐々に具体化し「沼垂の未来をつくる」ためのイベント「ぬったり冬の陣」とし、新潟市の食の陣当日座に合わせたらとも話し合われましたがなかなか日程が決まらず、沼垂の人達のイベントなのだから、いかに沼垂の人々がたくさん参加してくれるかを考えた日程ということで、2月26日の日曜日に決定、名称を「沼垂もんの冬まつり」としました。

また、住民の意識調査を実施し、報告書を作成するということも決まりました。私が第一に思ったことは、この意識調査(アンケート)の大切さでした。沼垂の住民の本音はどうかしらというが、少しでもわかるのではないかと思ったのです。

○当日の様子から

いよいよ当日がやってきました。大雨の降る寒く冷たい日でした。でもスタッフの皆さんは、朝早くから準備をし、屋内屋外とも万全を期し、沼垂の人々を待ちました。

どうでしょう。沼垂は人・人・人で大変なことになりました。おばあちゃん、おばさんはお料理教室に、おじいさん、おじいさん、お父さん、赤ちゃん、子どもたちは子供村にと、午後の芸能村も大盛況、屋外の屋台村は会場が2カ所に別れていたもので、やはり少しとまどってしまいました。

今昔村・散歩村は会場が離れていて雨の中の移動は大変でしたが、内容はおもしろく聞かせていただきました。

第1回目の冬のイベントとしての「沼垂もんの冬まつり」に参加させていただいて、少し気分が明るくなりました。沼垂にもこんなにたくさん子ども達がいる。すばらしいことだと思います。大人になっても沼垂に住み続けたい、と思うようなまちにしていくことが私達大人の役目かなと思います。

○沼垂もんの冬まつり反省会から

良かった点は、「継続は力なり、今後も事業を続けてほしい。」ことや、「女性スタッフのお陰で子どもたちが大いに喜んでくれた。」「盛況に終わり、良かった。」という意見がありました。その反面、「イベント会場の分散化は、良くない。」「情報が徹底していない。」「PR不足。」「駐車禁止区域に車を止める客がいて警察から注意を受けた。」「ワークショップに参加する人が少ない。」等々、反省事項が沢山出されました。

○アンケート結果から

〈沼垂もんの冬まつり参加者の意見 195人〉

50～70歳の女性の意見が多く、沼垂にお住まいの方の意見は、人情に厚く、風情があり、歴史を身近に感じることができ、コミュニティの絆の強い街で、いろいろな公共施設が身近にあり、住みやすいと考えている反面、商店街の空き店舗が増え、買い物ができなくなっていることや、道路が狭いし、駐車場や公園や子どもの遊び場が少なく住みにくい街だと感じていることが分りました。

〈万代、明鏡高校生の意見 376人〉

10代の若者で沼垂に住んでいない方の意見は、沼垂の街に関心が無く、すみにくい街だと感じている生徒が約60%、住みにくいと感じていることについては、沼垂の街を知らないことから、買い物ができなさと感じている生徒が約40%の意見がありました。その中には、高校の近くにコンビニエンスストアが無いこと、洒落た店や若者の購買意欲が持てる店が無いとの意見も含まれています。しかしながら、40%の生徒が沼垂に関心があるとの回答があり、沼垂の街を知ってもらうことが必要ではないかと感じられます。

4 終わりに (省略)